

2002年11月25日

文部科学大臣
遠山 敦子 殿

社団法人日本天文学会
理事長 田原 博人

ALMA 計画への早期参加実現に関する要望書

アタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計 (ALMA) は、南米チリのアンデス山中に 2011 年本格運用開始を目指して日本、北米、欧州が協力して準備を進めている世界で唯一のミリ波からサブミリ波帯における大型電波望遠鏡です。特に未だ本格的な大型装置による観測が実現していないサブミリ波帯において、人類にとって関心の高い課題である生命の存在する惑星や宇宙最初の天体の謎に迫るなど、光では見えない未知の宇宙を開拓し、太陽系から初期宇宙に至るまでの天文学研究を飛躍的に発展させることが期待されています。

日本はこのような大型計画の重要性を早くから認識し、1983 年にはその原型となる計画の検討を世界に先駆け独自に開始し、1992 年からチリ北部のアンデス山脈高地を建設候補地として調査を進め、またサブミリ波検出器の開発でも最高感度を達成するなど、世界で最も早く計画を立案・推進してきました。一方、米欧でもそれぞれ類似の計画を推進してきたこともあり、日米欧の三計画を統合してより画期的な性能を持つ大型電波望遠鏡 ALMA を実現することで合意に至り、2001 年 4 月に日米欧の計画推進当事者がそのための共同宣言を採択しました。その後、北米と欧州は建設予算の認可を得て二者合同で 2002 年から望遠鏡の建設を開始することを決定致しました。

日本の天文学コミュニティはかねてから国立天文台を通じて ALMA 計画への早期参加を要望してまいりましたが、米欧が先行する形になったのは大変残念なことです。米欧からは、当該望遠鏡の完成には日本分担分の建設が必須であるとして、日本の早期参加に対する強い希望が出されています。日本の予算承認が大幅に遅れることは、計画の立案・推進において中心的な役割を果たしてきた日本が、米欧との国際協力による建設・運用において主体的な役割を維持できなくなる等、日本が国際的な天文学コミュニティに対する責任を果たさない結果に繋がる可能性があります。これまでに世界的な多くの成果をあげてきた日本の天文学を引き続き世界の最先端として一層発展させ、人類の夢に挑戦するためにも、ALMA 計画への早期参加実現を強く要望致します。

以 上